

# 柏崎体育

柏崎体育 第159号  
柏崎市体育協会 広報紙  
平成26年1月17日発行  
編集 柏崎市体育協会広報部  
印刷 柏崎インサツ

## 全国大会で2013年も柏崎勢大活躍!

### 二十回目の日本一

柏崎ライフセービングクラブ

池谷 雅美

十月十二日、十三日、神奈川県藤沢市片瀬西浜海岸にて、第三十九回全日本ライフセービング選手権大会が開催されました。今年も、東日本選手会が台風の影響で開催されず、本選はタイムタイムテールブルの中で最終競技が行われました。



ライフセービングの競技会は水難救助の技術を競う大会。ライフセービングの根本にある人命救助ですが、水辺の事故防止に努め救助力向上のために始まった競技。

ライフセービング競技の一つであるビーチフラッグスは、進行方向と逆を向きつつ伏せの姿勢で笛の合図と共に振り返り二十メートル先にある旗(フラッグ)を取り合う競技。フラッグは人数よりも少ない数が立つておりスタートの合図で振り返るまでに約一秒、旗を取るまでに約四秒の世界。瞬発力、集中力、判断力の三つが主に必要とされています。決勝では、予選を勝ち抜いた八人が一本ずつ少ないフラッグを取り合います。八人→七人→六人...そして最後の二人になります。最後の一本を競ったときは、スタートの合図が鳴った瞬間からレスガスローモーションのように視界に入ってきました。走っている途中は冷静な私がそこにいました。途中相手との接触がありました。二人同時にフラッグをめがけ飛び込みました。絶対に勝つという気持ちで最後の一本を掴み取ることができました。四十歳になった今年、二十回目の優勝を成し遂げることができました。

競技中は、プレッシャーと闘い、何度も集中力も途切れそうになりましたが、家族や多くの方々の支えと応援のおかげで結果を出すことができました。皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。海の町柏崎のために、微力ではありますがこれからも一生懸命精進してまいりますと思っております。

### 国体 スポーツ祭東京 大会に参加シマ

(なぎなた成年女子演技競技三位)

柏崎なぎなた協会

竹葉 美江

東京国体での上位入賞は、今年の私の大きな目標でした。この国体に照準をあわせて、負傷していた肩を手術し、リハビリに取り組んできました。

昨年の「ぎふ・清流国体」での演技競技は組み合わせもよく、周囲からも入賞間違いのないと言われていましたが、試合中に技を失敗してしまい、入賞とはほど遠い結果に終わりました。気の緩みがあったのだと思います。昨年とても悔しい思いをしたぶん今年にかける気持ちも強く、肩の状態は万全ではありませんでしたが、試合に出られる状態まで筋力を戻し稽古を重ねて大会に臨みました。

大会では、ペアと稽古できる限られた時間を大切にし、集中して挑むことができました。組み合わせでの山場は五月の都道府県対抗試合で演技競技二位に入賞した京都府でしたが、僅差で勝利することができ、その勢いのまま準決勝に進みました。準決勝の相手は福岡県で、今大会で番よいと思える演技ができたと思いましたが4-1で敗れてしまいました。気持ちを切り替えて臨んだ三位決定戦で岐阜県に勝利し、三位入賞を果たすことができました。無事大会を終えて、喜びと安堵の気持ちとともに、この大会に向けて支えてくださった職場の皆様、ご指導くださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ未熟ですが、この大会の結果を踏台にし、二年後に開催される世界選手権力ナダ大会の出場を目指したいと思っております。

これからも毎日を大切に、精進して参ります。暖かい応援、本当にありがとございました。

### 日本選手権を終えマ

ブルボンウォータークラブ柏崎

志水 祐介

十月十二・十三・十四日に第八十九回全日本選手権水泳水球競技が柏崎にて開催されました。私たちブルボンウォータークラブ柏崎は二連覇を目指し、今大会に挑みましたが三位という結果に終わってしまいました。多くの市民の皆様が会場に足を運んで頂き、大きなご声援の中優勝できなかったことがとても心残りです。この悔しい気持ちをお忘れず、来年の日本選手権に向けて一から精進していかねければいけません。

私は十一月よりイタリアプロリーグ、セリエAのパラヌオー、プレッシャへ行きます。世界で私のような身長百八十cmのセンター選手はいません。しかしスピード、テクニクで世界トップクラスのセリエAで自分自身がどれだけ通用するかを試し、世界を視野に実力向上に励みたいと思います。



### 「五人のサムライ」

柏崎少年硬式野球連盟

柏崎リトルシニア

監督 吉野 公浩

二〇一三年シーズンスローガン「二年連続神宮出場」掲げ、チーム一丸となり必死に白球を追いかけてきた。昨年の新人大会初戦敗退後、厳しい冬季練習を乗り越え、数々の遠征で強豪

チームの胸を借り、チームはたくましく生まれ変わった。三年生が五人と少なかったが、この五人のサムライがチームの核となり、リーダーシップを発揮し、それに刺激を受けた下級生も伸びてきた。神宮をかけた最後の夏の大会は、二日で三試合という厳しい日程を根性で戦い三連勝でベスト8進出。神宮まであと一歩だったが、準々決勝0-1で敗退し、二年連続神宮は成らなかった。八月から新チームに切り替わり、今度は来春大阪で開催される全国選抜大会に向けてチームは動き始めた。新潟ブロック新人大会は、延長戦二試合を制し決勝に駒を進めたが、決勝は0-4で敗れ準優勝。信越連盟順位決定戦では、各ブロック準優勝チーム同士が戦い、二試合とも逆転で勝利し全国大会は第四代表として出場権を獲得することができた。「逆転の柏崎」「粘りの柏崎」は、今年もチームに受け継がれた。来春の全国大会は、過去最高のベスト16超えに挑戦したい。新チームの好成績の陰には、三年生五人のサポートが大きかった。引退後も後輩のために打撃投手を務めてくれたことに感謝したい。また、好成績の背景には、練習環境はもちろんのこと、高校、大学、社会人で頑張るOB達の活躍も選手達に良い刺激を与えている。今後、頑張り続ける力、諦めない心を選手達に伝え続け、いつか日本のチャンスがくることを信じて取り組んでいきたい。

